

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】 アンダーラインは本学教員、 研究員および技術職員、 ○は発表者、 ※は大学院生、 卒研生または卒業生

学会名	The 3rd International Conference of Mycotoxicology and Food Security (ICM2019)
演題名	The mode of action of diocstatin that inhibits aflatoxin production of <i>Aspergillus flavus</i>
発表者	<p>○<u>Tomohiro Furukawa</u>1), Hidekazu Katayama2), Kohji Murase3), Rumi Negishi4), Michio Suzuki3), Seiji Takayama3), <u>Shohei Sakuda</u>1)</p> <p>1) 帝京大・理工・バイオ, 2) 東海大・工・生化, 3) 東京大院・農生科・応生化, 4) 東京大・分生研</p> <p>【生理活性利用学研究室】</p>
内容	<p>タイ・バンコクで開催されたThe 3rd International Conference of Mycotoxicology and Food Security (ICM2019) (<a href="http://thaimycotoxin.org/ICM2019/">http://thaimycotoxin.org/ICM2019/</a>) にて、理工学部の博士研究員である古川智宏博士が発表を行いました。アフラトキシンはピーナッツ等に感染するカビが作る強力な毒性物質です。発表では、アフラトキシンの生産を抑制する物質の作用メカニズムについて、ケミカルバイオロジーの手法により解析した研究成果を発表しました。本研究の一部は、農林水産省委託プロジェクト研究「カビ毒の動態解明と産生低減技術の開発(カビ毒動態)」として行われたものであり、東海大学、東京大学との共同研究として進められています。</p>
関連画像	